

世界人口の増加※1



2012年と比較した  
2050年までに  
増やすべき食料生産 **+50%**※2

・食料・水・エネルギーの需要拡大

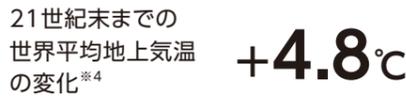
グローバルな高齢化

65歳以上人口※3



・健康寿命の延伸ニーズの高まり  
・ヘルスケア領域の需要拡大

気候変動



・脱炭素化の加速  
・自然災害による物理的被害  
・原材料調達不安定化  
・サプライチェーンの分断

パンデミックやウクライナ情勢による社会の大きな変化

・生活者の行動様式の変化  
(巣ごもり、外出控え、デリバリー増等)  
・衛生意識・健康管理意識の向上  
・物資やエネルギーの安定供給への  
危機感の高まり  
(資源の困り込み、地産地消傾向ほか)  
・社会分断  
(貧富二極化、地政学リスクの高まり)  
・孤食の深刻化  
・グリーン・リカバリーの推進

デジタルの活用加速

・新たなビジネス機会・競合の出現  
・情報・製品・サービスの提供方法の変化  
(D2C等)  
・生活者との直接コミュニケーション機会  
の増加  
・Z世代の影響力の増加

マテリアリティ項目	関連する機会とリスク (○機会 ●リスク)		味の素グループの主要な取り組み	貢献するSDGsの ゴール
	具体例			
食と健康の課題解決への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不足栄養・過剰栄養の改善(顧客の便益)</li> <li>・乳幼児、若年女性、高齢者栄養</li> <li>・健康なこころ</li> <li>・再生医療</li> <li>・予防医療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康課題の深刻化・多様化による食事・運動等の生活習慣の見直し</li> <li>○ブランドへの信頼獲得</li> <li>○健康・栄養関連の法制化・ルール強化(砂糖税・栄養表示)</li> <li>○予測予防への食と栄養の関与</li> <li>○再生医療技術、抗体医薬・核酸医薬の発展</li> <li>●健康・栄養分野における競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしく摂取し、心身のすこやかさにつなが る食品・アミノ酸製品およびメニューの提供</li> <li>・おいしい減塩の実践支援</li> <li>・たんぱく質摂取の推進</li> <li>・おいしい減糖、減脂の実践支援</li> <li>・職場の栄養改善</li> <li>・栄養プロファイリングシステムの製品開発へ の利用</li> <li>・[アミノインデックス技術]による予防医療へ の貢献</li> <li>・再生医療用培地の提供</li> <li>・バイオ医薬品の受託開発・製造</li> </ul>	
生活者のライフスタイルの変化に対する迅速な提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公正なマーケティングと広告</li> <li>・製品の入手可能性/容易性</li> <li>・価値観の多様化への対応(スマートな調理・食の楽しさ等)</li> <li>・孤立化・個食化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共に食べる楽しさ・喜びの提供による企業レピュテーションの向上</li> <li>○デジタル活用等による新しい価値の創造</li> <li>●生活者のライフスタイルの変化、価値観の多様化への対応遅れによる成長機会の損失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を通じた人と人のつながり・コミュニティの創出</li> <li>・ビッグデータ・生活者データの活用によるマーケティングの高度化</li> <li>・スモールマスへの対応強化</li> <li>・製品・サービス・情報のお客様への適切な届け方の実践</li> <li>・スマートな調理等、簡便ニーズに対応した製品・サービスの拡充</li> </ul>	
製品の安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の品質と安全性</li> <li>・適切な情報公開とラベリング</li> <li>・食品への新技術応用</li> <li>・宗教対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お客様の満足度向上によるブランドへの信頼獲得</li> <li>○ステーキホルダーへの適切な情報公開による信頼獲得</li> <li>●うま味・MSGに対するネガティブな風評の拡大による事業への影響</li> <li>●製品の品質クレーム・トラブルによるお客様からの信頼低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品パッケージやWEBサイトでの適切な情報共有</li> <li>・「お客様の声」の製品・サービスの開発・改善への反映</li> <li>・うま味・MSGの価値共有のためのコミュニケーションを強化</li> <li>・品質保証活動の徹底と人材育成</li> </ul>	
多様な人材の活躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きがいの向上</li> <li>・多様性と労働環境の平等性</li> <li>・従業員の健康・安全・便益</li> <li>・労使関係の適正化</li> <li>・従業員に対する正当な対応</li> <li>・給与と福利厚生</li> <li>・人材の獲得、育成と退職防止</li> <li>・人財の獲得、育成と退職防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働きがいの向上による会社の成長</li> <li>○イノベーションが起きやすい環境づくり</li> <li>○様々なバックグラウンドを持つ人材の獲得・登用ルートの増加</li> <li>●人材獲得競争の激化によるコスト上昇や多様な人材の獲得が進まない場合の企業レピュテーション低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の「ASVの自分ごと化」促進</li> <li>・エンゲージメントサーベイを活用したPDCA サイクルの推進</li> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョン推進に向け た組織風土改革</li> <li>・女性人材の育成・登用</li> <li>・健康経営の推進</li> <li>・人権教育・啓発活動</li> <li>・イノベーション創出のための企業文化醸成</li> </ul>	
気候変動への適応とその緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガスの排出量削減(Scope 1・2・3)</li> <li>・生産時のエネルギー管理</li> <li>・輸送時のエネルギー管理</li> <li>・大気汚染への関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットゼロに向けた取り組みの推進、炭素税の負担軽減によるコスト競争力確保</li> <li>○脱炭素に向けた外部連携</li> <li>●気候変動による原材料調達不全</li> <li>●気候変動への対応遅れによる企業価値毀損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品ライフサイクル全体でのネットゼロに向 けた長期的な取り組み</li> <li>・生産時・輸送時のエネルギー削減の取り組み</li> <li>・温室効果ガス排出係数の低い燃料への転換</li> <li>・内部カーボンプライシングの活用</li> <li>・TCFDに対応した情報開示(シナリオ分析等)</li> <li>・飼料用アミノ酸による環境負荷低減(土壌・水 質汚染の低減)</li> </ul>	
資源循環型社会実現への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物削減・3R(Reduce, Reuse, Recycle)</li> <li>・製品のパッケージング</li> <li>・廃棄物/危険性物質の管理</li> <li>・容器包装の環境負荷低減</li> <li>・製品・サービスのライフサイクルインパクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に配慮した素材の開発による市場獲得</li> <li>●廃棄物削減、リサイクルへの取り組み遅延による企業価値毀損</li> <li>●プラスチック廃棄物規制等への対応遅延による事業機会損失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生分解性が高いアミノ酸系洗浄剤の供給</li> <li>・プラスチック使用量削減、モノマテリアル包装資材への転換</li> <li>・事業活動を行う国・地域におけるリサイクルの社会実装への貢献</li> <li>・製品パッケージを活用したプラスチック廃棄削減訴求</li> </ul>	
フードロスの低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料の有効活用</li> <li>・生活者啓発(持続可能な消費等)</li> <li>・流通過程での廃棄削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産工程での歩留まり向上、返品・製品廃棄の削減の取り組みによるコスト削減</li> <li>●フードロス低減の取り組み遅延による企業価値毀損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産工程のロスの低減</li> <li>・需給・生販バランスの最適化、賞味期限延長</li> <li>・有用化推進</li> <li>・サプライヤー、小売、流通との連携推進</li> <li>・廃棄削減に役立つ製品開発</li> <li>・生活者へのロス削減普及活動</li> </ul>	
持続可能な原材料調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性への影響</li> <li>・森林減少の抑制</li> <li>・児童労働、強制労働の排除</li> <li>・サプライチェーンマネジメント</li> <li>・持続可能な土地利用</li> <li>・アニマルウェルフェア</li> <li>・動植物栄養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資源循環や生物多様性に配慮した製品開発による事業機会の創出</li> <li>●サプライチェーン上の品質問題発生による原材料調達不全・製品回収</li> <li>●サプライチェーンにおける社会・環境問題への対応遅れによる原材料調達不全、企業 価値毀損</li> <li>●自然災害やパンデミック、特定地域の輸出規制への対応遅れによるサプライチェーンの断絶</li> <li>●食資源の枯渇による原材料調達不全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーン上の課題の可視化</li> <li>・人権影響評価の実施</li> <li>・アニマルウェルフェアの推進</li> <li>・トレーサビリティの確立および認証品購買の 推進</li> <li>・公正な競争の確保と従業員教育の徹底</li> <li>・コプロ活用による持続可能な農業への貢献</li> </ul>	
水資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産時の水の消費と排水の管理</li> <li>・農業・畜産における水利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水リスク低減による原材料安定調達、製品安定供給の実現</li> <li>●渇水・洪水・水質悪化による生産停滞</li> <li>●水資源保全への対応遅れによる企業価値毀損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産プロセスの最適化</li> </ul>	
ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス</li> <li>・事故や安全性の管理</li> <li>・競争行動の適切さ</li> <li>・知的財産の保護</li> <li>・政治的活動および政治献金</li> <li>・倫理規定や支払いの透明性</li> <li>・ITマネジメント</li> <li>・自然災害・疾病への対応</li> <li>・システミック・リスクの管理</li> <li>・データセキュリティとプライバシーの保護</li> <li>・規制や政策への影響力</li> <li>・環境や社会の資産やオペレーションへの影響</li> <li>・サクセッションプラン</li> <li>・経営の透明性</li> <li>・人権とコミュニティへの関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切なリスクテイク</li> <li>●コーポレート・ガバナンス、内部統 制の機能不全に伴う事業継続リス ク、予期せぬ損失の発生</li> <li>●適切な情報開示の不足による投資 家からの評価の低下</li> <li>●脆弱なITマネジメント体制による 競争力低下</li> <li>●自然災害や疫病・パンデミックの複合的な発 生による操業停滞・停止</li> <li>●マクロ情勢変化による組織運営への混乱や 事業採算性低下</li> <li>●知的財産リスクによる事業への影響</li> <li>●為替・金利の急激な変動による事業への影響</li> <li>●租税制度・税効果の変動による税負担増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ従業員全員への味の素グループポリシーの浸透</li> <li>・ホットライン(内部通報制度)の整備</li> <li>・コーポレート・ガバナンス体制の強化</li> <li>・事業継続マネジメント(BCM)の強化</li> <li>・労働安全衛生マネジメント</li> <li>・「全社重要リスク」の選定とその対応策の検討</li> <li>・ITセキュリティ関連規程の徹底によるサイバーセキュリティ対策強化</li> <li>・知的財産リスクマネジメント</li> <li>・多様なステークホルダーとの対話の実施</li> </ul>	
グローバルな競争激化への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の選択と集中</li> <li>・イノベーションの早期創出</li> <li>・オープンイノベーション</li> <li>・基盤インフラの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル・ディスラプションによる事業基盤改革の推進</li> <li>○外部連携による価値共創</li> <li>○技術革新によるスペシャリティの創出</li> <li>○変化の先読みによる競争優位の確立</li> <li>●IT投資を怠ることによる機会損失や競争力低下</li> <li>●強固な参入障壁を構築できないことによる多数の競合企業の出現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品とアミノサイエンスの部門間連携強化</li> <li>・サプライチェーンマネジメントの進化(デジタル活用、エコシステム確立等)</li> <li>・デジタルトランスフォーメーションの推進</li> <li>・課題解決型R&amp;D体制の確立</li> <li>・コンパティティブ・インテリジェンス(中長期の取り組み)</li> <li>・オープン&amp;リンクイノベーションの推進</li> <li>・グローバル生産体制、物流体制、雇用制度の見直し</li> </ul>	

※1 国連(UN)(2019,2022)  
 ※2 国連食糧農業機関(FAO)(2017)  
 ※3 国連(UN)(2020)  
 ※4 国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)(2021)